

2022年3月期事業報告書 (2021年4月1日～2022年3月31日)

特定非営利活動法人 ヴォース・ニッポン

1. 概要

2022年3月期の活動方針は、「高い品質と信頼性を備えた海洋の現場計測データを社会に提供し続けることの価値を再認識し、新たな事業の創出に向けて展開する意志があることを明確に示す。」としました。

現行の装置による観測は、今年で5年目を迎えようとしており、これまでの課題すべて見直す全面改修の年となりました。装置の各センサーは全て外国製のため、世界情勢の影響を免れず、結果的に再稼働までに時間を要したことは、今後の課題としてひとつのテーマとなりました。

今期に取り組んだ各事業の詳細は、「5. 事業計画の実施内容」をご覧ください。

2. 会員数

- ・正会員数：13名（2022年3月31日現在）
- ・支援会員数：0名（2022年3月31日現在）

3. 総会・理事会

[総会]

第21回 通常総会は、2021年5月14日、当法人事務所で開催され、次の通り議決・承認されました。（正会員数13名、出席者13名、うち書面表決者2名、表決委任者5名）

- ・2021年3月期の事業報告および決算の承認
- ・2022年3月期の事業計画および予算の承認
(事業計画は、データ回収・公開事業、装置維持管理事業、海洋モニタリング活動の継続3事業、経常収入予算475万円、同支出406万円など)

[理事会]

第26回 理事会（日時：2021年5月14日（金）／場所：当法人事務所）

- ・2021年3月期の事業報告および決算の承認
- ・2022年3月期の事業計画および予算の承認

4. 監査

2022年3月期の収支計算書を含む全ての会計書類について、当法人監事による監査を受け、2022年4月18日付けで、内容は正確かつ適法である旨の監査報告書を受領しました。

5. 事業計画の実施内容

2022年3月期は、次の3事業を実施しました。

- (1) データ回収・公開事業（継続事業）
- (2) 装置維持管理事業（継続事業）
- (3) 海洋モニタリング活動（継続事業）

(1) データ回収・公開事業

当初の目標：

東京-北海道間の沿岸海域で観測した表層塩分、水温、pH データを低遅延で公開する。

沿岸データの公開：

時刻飛び（データ欠損）もほとんど見られず、かつデータも安定して取得できました。但し、2021年11月の電子部改修のため撤去。22年3月期までデータ未公開となる。（春の復旧を予定。）

pH データは、20年3月下旬に異常が発生、その後計測値が安定せず、データの公開にはいまだ至っていません。但し、代替記録器（電流ロガー）によって、2021年9月に pH データ取得に成功。6航海分を公開できました。

対外的には、21年9月に実施された東京湾環境一斉調査に日本通運株式会社と共同で参加し、21年9月16日の調査基準日に、同社の RoRo 船「ひまわり 8」に搭載した観測装置で計測した、東京湾入り口から湾奥部の中央防波堤にいたる海域での往復の塩分、水温、pH データ等、約 310 件を提供することができました。

データ回収：

「ひまわり 8」の観測装置による 21年4月～22年3月までの東京-北海道間沿岸海域の公開データ数は 11月8日の電子部回収前までの約 16.6 万件に止まり、前期比（22.7 万件）と比べ 27% の減少となりました。

データ処理の自動化：

取得されたデータの自動処理（品質管理・記録・公開）には細かな修正がなされ、大量のファイルを短時間で公開するのに、大きな効果を発揮しています。

実績経費：

データ回収・公開事業の実績経費は、66.9 万円でした。

(2) 装置維持管理事業

当初の計画：

pH データを含めて観測装置全体の安定稼働に努める。装置全体のシステム設計について、メーカーと協力して再検討を進める。「ひまわり 8」の運航にかかわる全ての関係者との緊密な連携を維持する。

観測装置の稼働状況：

2021年11月に電子部・塩分計・pH 計の、ほぼすべての機器を全面的に回収し、総合的な改修作業に取り組んでいます。pH 計測の安定化（配線の抜本的な見直し）、通信環境の安定化（制御 OS の換装）と、大きな 2 つの課題の解決を図る他、装置全体の漏電対策など電源周りの安定化も含んでいます。

撤去した電子部の他、塩分計・pH 計も、22年3月期の時点で復帰が見込めず、年度持ち越し期間も含めると、データ未公開期間は半年に及びます。

ただ、以前のような時刻飛び、データ未取得は大きく改善された状況を確認していますので、復旧後の安定稼働に大きく期待をしています。

メンテ訪船作業：

コロナ感染症対策のための緊急事態宣言の発出などの影響を受け、観測装置のメンテ作業のための「ひまわり 8」への訪船機会は制限されましたが、装置の不調発生などを受け、訪船回数は10回、メンテ作業の従事者数は延べ25名となりました。(メーカーの技術者は含まれません。)

篤志観測船関係者へのお礼：

当法人は、観測装置を搭載いただいている「ひまわり 8」の船主である日本通運株式会社様、運航管理をご担当の日本海運株式会社様、「ひまわり 8」の乗員の皆様をはじめ、ご関係の皆様から多大なご協力をいただき、航走水温・塩分・pHデータを取得・公開しております。コロナ禍の困難な状況にあって、特に訪船作業等にご支援をいただきましたご関係の皆様には深謝いたします。海洋のモニタリングは、同一条件で長期に継続することに意義がありますので、今後も、皆様との信頼関係を維持・発展させ、目標達成に向けて進んでまいります。

実績経費：

装置維持管理事業の実績経費は174.0万円です。電子部の全面的な改修、塩分計の定期校正、pHセンサーの交換など、大きな出費が重なりました。

(3)海洋モニタリング活動

当初の計画：

米神漁港における定時採水、測温、サイズ別ろ過試料の作成、pH計測を継続する。採水した海水試料について、ATP(アデノシン3リン酸)計測を行い、有意な結果が得られるか試行する。

ATP(アデノシン3リン酸)計測：

米神漁港にて望大潮時に採水した海水の試料の分析に応用する目的でATP検出器を購入し、20年8月から諸試験を実施して参りましたが、ホルマリン添加した試料によるATP発光量の低下は顕著で、過去に作成したホルマリン添加試料に対し、ATP分析を適用するのは困難と考えられる。

現在は光学的な手法を取り入れながら、これまで蓄積された資産を有効に評価する手法を模索しています。

定時採水・pH計測・ろ過試料作成：

望大潮時に米神漁港棧橋先端部で-2、-4m層から各18lit程度採水する定時採水は、12回の予定でしたが、1回は、水中ポンプを駆動するインバータの不調のため、表層のみの採水となり、予備日の新月に実施し、全13回となりました。

現場での棒状温度計による水温計測と持ち帰った海水のpH計測、および各層とも15litを300、100、50、10ミクロンのメッシュにより多段ろ過、各メッシュの残渣物を集めホルマリン処理し、試料の作成を行っています。

実績経費：

海洋モニタリング活動の実績経費は7.09万円です。

6. 事業会計の概要

2022年3月期事業会計

2022年3月期の事業会計の概要は以下のとおりです。当法人は非営利事業のみを行い、事業会計は、経常部門と特定資産部門とに分離して管理されています。

〔経常部門〕

・ 事業収入	
受け入れ寄付金	312.5 万円
特定資産運用益収入	150 万円
・ 事業支出	
事業費（3事業計）	248 万円
管理費	123.8 万円

〔特定資産部門〕

・ 期初特定資産総額	5,076 万円
・ 期中特定資産増加額	242 万円
・ 期末特定資産総額	5,319 万円

なお、経常部門の22年3月期末の正味財産合計額は42万円で、前期末より7.7万円増加しました。

7. 運営上の課題

当法人は、「海洋の基礎データを誰もが自由に利用できるよう提供し、海洋環境の変動を解明することに貢献する」との理念を掲げ活動を続けてまいりました。現在は、持続可能な社会の実現に貢献するという目標に向かって、日本通運様様の RoRo 船により東京-北海道間の沿岸海域で取得した精度の高いデータをご提供することに努力しております。

国内のみならず、国際的な社会情勢の影響を大きく受けながらも、一方では、今後更に期待される環境への取り組み。その礎となるよう、本活動の社会的な意義・役割を改めて検証し、安定して活動を展開・進展させるよう取り組んで参ります。

今後も皆様のさらなるご支援をいただければ幸いです。

以 上